



聖アンデレ教会 教会報

さかえ

第 386 号

日本聖公会東京教区 聖アンデレ教会
〒105-0011 東京都港区芝公園3-6-18
TEL 03-3431-2822 FAX 03-3434-5698
www.st-andrew-tokyo.com

発行人：牧師 司祭ステパノ 卓志雄
編集人：リチャード倉辻明男
セバステアーン 林圭佑

「子ロバの勘違いから学びました！」

牧師 司祭 ステパノ 卓志雄

十三年前の出来事を思い起こす。二〇一二年の大斎節は苦しかった。悲しかった。韓国で宗教専門雑誌を発行している二番目の兄がカルト団体に訴えられた。その団体は、教祖を再臨イエスとしてこの世に來られたと信じ、三位一体を否認する。教祖はすでに死亡したが彼の夫人を神の新婦と信じ未だに亡き教祖の再臨を待ち望んでいる。家出、離婚、強制献金、マインドコントロールなどの問題を起こしており、カルト団体の諸問題に対して指摘、批判したことが、名誉棄損に当たるという理由で訴えられたのだ。二審で敗訴し最高法院の最終判決を待っている間に、雑誌社と銀行口座が差し押さえられる危機に陥ってしまった。祈りを献げたが、それだけではなく経済的にもエールを送った。献げても自分にとつて何の痛みもない程度ではなく、少し痛いぐらいの経済的エールを送った。

大斎節に入って信じられないことが起きた。韓国のいくつかの教会が計画していた合同イースター礼拝がキャンセルとなり、礼拝の責任者である牧師の提案によって元々策定されていた予算の四千万ウォンが兄の雑誌社のために献げられたのだ。またそれだけではなく、訴訟に必要な金額のうち二千万ウォンが足りないとこの事実を知ったその責任者の牧師（韓国で知名度の高い牧師）は SNS（Social Networking Service の略称で、登録者同士が交流できるインターネットの会員制サービス）を用い、「二千人が一万ウォンずつ後援してカルトと戦っている雑誌社を救いましょう」と提案をした。二千人を超える人々の募金の結果、四六時間で目標募金を大幅に超える金額が集まったとの発表があった。雑誌社は今まで通り神様の正義と平和を宣べ伝えることが出来るようになった。

その後、責任者の牧師はこのように呟いた。「多くの人々に『あなたは素晴らしいことをやった。尊敬するよ。』と言われても私は愚かな子ロバになれないように努力します。」

イエス様を乗せてエルサレムに入城した子ロバは、人々が熱狂的に歓迎している姿を見て勘違いをしたかもしれない。人々は子ロバではなくイエス様を歓迎しているのに……。勘違いを言っている子ロバに対して人々は言った。「イエス様を乗せない、イエス様に仕えない、イエス様に従わないロバは単なるロバにすぎない。」と。わたしたちの教会生活において、日常生活において褒められる時、偉くなったと感じる時、「素晴らしい！」

すごい！」と言われる時、自分の力、能力、知識、財力ですべてを成し遂げたと勘違いをしてしまう。しかしそれは自分によるものではない。イエス様に仕えよう、従おうとする時、イエス様がわたしたちにみ手を差しのべてくださるから、共にいられるから、出来るのである。死に至る道であると知りながらも敢えてエルサレムに入られ、苦しみと痛みを耐え忍びながら御父に従われた時、神が共におられたから可能であった恵みの出来事が主イエス・キリストの復活である。今年の復活日も、子ロバに乗って御父に従って敢えて苦難の道を進んだイエス様の物語が忘れられない。



新任教会委員紹介

今から勉強します！

パウロ 齊藤信太郎

皆様こんにちは！

このほど教会委員に初参入しました齊藤信太郎です。古くからアンデレ教会におられた方は私の名より私の父母の名前の方がお見知りおきかとも思います。小さい頃は悪ガキで父母に連れられ教会で暴れ、その当時の教会の方々に大変ご迷惑をおかけしました。今となってはその方々に頭が上がりません。今まで教会にもあまり足を運んでいなく、都合が合えばお手伝いさせて頂いたぐらいです。こんな私ですが、今回任命されたのは皆様に多大にお世話になった父政雄と母美代子がおそろそろ教会の事を勉強しなさいとの事なのかと腹をくくりました。どこまでお役に立てるか分かりませんが、勉強させて頂きながら皆さんと楽しく笑顔あふれる活動が出来ればと思っております。まずはキリスト教、聖公会、アンデレ教会の事を今更ですが勉強したいと思えます。その中で、まずは皆さんの顔と名前を憶えていく事から始めたいと思います。

気楽にお声を掛けてください。力仕事をはじめお役に立ちたいと思っております。頭の中身は別として身体は両親の良いものを貰ったので丈夫に出来ています。ご用命をお待ちしています。



洗礼を受けて

祈りの道

アゲネス 藤山瑠衣

昨年十二月二十二日、洗礼の恵みに授かりました。秋田ののどかな町でキリスト教には縁遠い環境で育った私が、東京タワーが目の前に聳える聖アンデレ教会に通うようになるとは、人生はわからないものです。ただ、音楽を続け、素晴らしい先生方との出会いのなかでその道に繋がったように感じています。

大学の頃から堀江眞理子先生にピアノ指導を賜り、多くの学びのなかでも「自分の音によく耳を傾ける」ということが深く心に響いて、今も大切にしています。在学中、先生がカザルスホールで演奏されたベートーヴェンのピアノソナタ第三十一番を聴き、まるで神様が降りてきたようなひかりを感じる音楽に衝撃を受けました。思えばそれがひとつの洗礼のようでした。東日本大地震の年に大学を卒業、社会の厳しさを痛感しつつ、音楽は人として大切なことを教えてくれた気がします。パンデミックを経て、堀江先生のオルガンを聴いてみたいと私は礼拝に参加するようになりました。そして卓先生と出会い、先生のあたたかな祈りと「耳を傾ける」姿勢は音楽そのもののだと感じました。聴くことが調和に繋がると、卓先生はご自身の背中を示してください。

また、名親になってくださった鈴木正敏さん・みどりさん夫妻も優しく迎えてくださり、教会が心の拠り所となりました。音楽がいつしか祈りとなって私を支えてくれていたのかもしれない。

洗礼というスタートをもって、その祈り、信仰を、みなさんと深めていきますと幸いです。

イベント報告

「もちつき」

ヨセフ 藤波勝久

今年も一月十九日(日)に餅つきを行いました。天気にも恵まれ、皆様においしいお餅と豚汁を食べていただくことができました。

日頃より、ボーイスカウト・ガールスカウトの活動にご支援をいただき本当にありがとうございます。



「かわいいお客様」

二月二日には、深川の聖救主教会のキッドスクールから可愛お客様です。卒園記念の行事で東京タワーと聖アンデレ教会に遠足です。聖堂の前でみんなで記念撮影をしました。



洗礼準備

「洗礼志願式」

三月五日の大斎始日を前に二日(大斎前主日)の主日聖餐式に於いて二名の青年の洗礼志願式が行われた。二名の若者は、三月三十日(大斎節第四主日)に洗礼を受けました。



大斎節

「灰の水曜日」

今年の大斎節は三月五日から始まりました。第一水曜日と言う事もあり三月の逝去者記念礼拝と重なり、礼拝に出られた方々全員が卓司祭から額に灰で十字架を記されました。「主イエス・キリストの苦しみと死を覚えながら大斎節を過ごし、喜びに満ち溢れる復活日を迎えたいと思います。」と卓司祭の言葉です。



研修会報告

東京教区ハラスメント防止研修会

エレミヤ大岡祐一朗

研修のメインテーマは「ハラスメントが起きる背景について」でした。多くの種類のハラスメントが一般的に認知される事が多くなった中、トラブルのほとんどにおいて、当事者間の価値観や感覚の相違が起因しているようで、それらの背景を専門家の先生から学ぶ内容の研修でした。

ハラスメントが起きる要因の一つとして、「アンコンシャス・バイアス」という定義があります。アンコンシャス・バイアスとは誰しもが持つており、「自分自身で気が付いていないモノの見方や捉え方の歪みや偏り」を指します。一例をあげると「男性が泣くのはみっともない」「体育会系出身だと根性がありません」「年配の人はデジタル機器に弱い」「〇〇大学教授が言っているから、その情報は正しい」などがあり、育ってきた環境や接してきた情報や経験の量や質によって形成され、それぞれの判断や行動に影響を及ぼすものです。

研修中、あるワークで単語の捉え方・考え方について話し合う場面がありました。例えば「後悔」という言葉一つ取っても、後悔を絶対したくない人（過去に後悔してきた経験）、後悔があったからこそ次に繋がると考える人（後悔が良い経験だった）などポジティブ、ネガティブ両面の捉え方がありました。また、その強度や種類も千差万別です。ゆえに、我々の意思は常にバイアスのかかった状態であるため、自分と相手の考え方や価値観のギャップ

に配慮しないと、ハラスメントの危険度が増す可能性があるという学びでした。対策としてはこのバイアス自体を理解し、気づき、年齢や立場を超えて、それぞれが感じている事を率直に話し合い、認め合うことがトラブル防止へ繋がるとのアドバイスもありました。

我々の私生活、教会生活に落とし込んだ際にも、人との意見や価値観が合わない事は多くあるでしょう。ある一言が原因で関係が難しくなり、互いに完全否定、その人を避ける、会話をしない、など距離が出てしまいうケースも少なく無い中で、我々は確実にバイアスが存在する事を前提として、言葉の選択は慎重に行い、また言葉尻に反応せず、言葉の意味を多面的に捉え、相手が本当に言いたかった事の意味や自分が言った言葉はどう感じているかのコミュニケーションが取る事ができれば、自分だけが正しいと思わず、お互いを認め合う事ができるのではないのでしょうか。

自分と違う考え方や意見を尊重し、認め合い、謝るべき事は謝り、感謝すべき事は感謝できる人間でありたいとこの研修を通して感じました。自分の今までの言葉選びへの戒めと今後のクリスチャンとしての歩み方のヒントにしていきたいと思っています。

活動支援のお願い

カパティランへのご協力をお願い

カパティラン理事長

トマス牧野兼三

この世界は急速に変化しています。数年前には社会全般でもてはやされた多様性という言葉が、一転して否定されるような動きが強まりつつあ

ります。特にトランプ政権の排他的な政策は、国際社会に深刻な影響を与えています。移民やマイノリティに対する偏見が助長され、多様性を尊重すること自体が脅かされつつあります。

こうした社会の風潮は、日本にも影響を及ぼし、カパティランが支援している海外にルーツを持つ学生たちをますます厳しい状況に追い込んでいます。

ただ、そうした中でも彼ら彼女らの多くは、家庭の事情や社会の偏見に苦しみながらも、自らの未来を切り開こうと懸命な努力を続けています。経済的な問題、アイデンティティに対する葛藤、社会的な孤立などの問題に寄り添い、未来を切り開くことのできる自立した大人となるための手助けとして、カパティランは五つの活動を続けています。

一「ごはん会」ともに食卓を囲み語り合う居場所作り

二「奨学金給付」金銭的就学支援

三「日本語クラス」日本社会に慣れ親しむための支援

四「野尻湖サマーキャンプ」将来も帰ることのできる故郷作り

五「フィリピン・ホームステイ」旅人としての多文化共生実体験

二〇一五年以来九年間に渡り、カパティランはアジア、中南米を中心に様々なルーツを持つ、延べ百名近くの学生たちに寄り添い支援してきました。

それによって、学生たちはそれまでの環境では得ることができなかった経験を重ねることができ、大きく

成長し、社会に巣立っています。彼らが日本社会にもたらす多様な価値観は、今や単なる多様性の促進という社会的価値だけでなく、今後の日本社会の発展のためにも不可欠な存在だと信じます。かつてイエス・キリストもまたベツレヘムからエジプトへと祖国を追われた難民でした。イエス様の歩んだ道は、様々な困難に直面しながらも、成長し社会に不可欠な存在となる若者たちの姿と重なります。

これまで聖アンデレ教会に連なるみなさま方には、日頃のお祈りはもちろん、多くのご支援をいただけてきました。あらためて感謝申し上げます。みなさまの一人おひとりのご支援が、若者たちの未来を大きく変える力となっています。

どうかこれからも、カパティランが支援する学生の中から、多様性を尊重し、社会で活躍できる人材が生まれ続けるようお祈りください。

引き続きのご支援をよろしくお願いいたします。



カパティランクリスマスの集い



コーヒで活動支援!

聖アンデレ教会の足跡 第十回

二〇一三年イースター

歴史資料整理係

この年の大斎始日は二月十三日。大斎講話として、二月十七日に小笠原忍司祭が「大斎節について」。三月三日には大畑主教が「聖公会の宣教の五指標」について。三月十日には笹森伸児司祭が「聖なる三日間について」貴重な学びができました。また、「出エジプト記」のアニメを鑑賞しました。二十四日のパームサンデーには、オルバン教会と合同で裏門から表の一般道へ出て大回りのコースの棕櫚の行列をしました。イースターエッグは四百七〇個の卵を準備。三月三十一日のイースター当日には六人の方が洗礼・堅信、二人の方が堅信を受けられ、オルガンとバイオリンの美しい奏楽に主イエスの復活の喜びに聖堂は満たされました。愛餐はエビピラフ・野菜スープ・サラダを二百四十八食作り、皆さんでおいしくいただきました。午後のプログラムは、こどもと祝うユーカーリスト、大人の劇「最後の晩餐」、その後子供達は、エッグハンティングでお菓子を頂き、楽しいイースターの一日でした。

(二〇一三年教会委員会議事録

イースター報告より)



教会行事案内

教会行事(四月～六月)

- ・四月一三日 棕櫚の日曜日
- ・四月一七日 聖木曜日・洗足式
- ・四月一八日 聖金曜日
- ・四月一九日 聖土曜日
- ・四月二〇日 イースタービギル
- ・四月二〇日 復活日聖餐式
- ・五月二九日 こどもとささげるイースター礼拝
- ・五月二九日 昇天日
- ・六月一日 創立記念日礼拝
- ・六月八日 聖霊降臨日
- ・六月二二日 聖オルバン教会 合同礼拝
- ・六月二八日 教会にジャズが来た

コイノニア

霊魂の平安と、ご遺族への主の
慰めを祈ります。



ホームページ



Facebook



広報チャンネル



Instagram

ご不明点がございましたらご遠慮なく
教会までお問合せください



◇毎主日 週報が発行されています。

教会ホームページでご覧いただけます。

FAX・郵送をご希望の方は事務所までご連絡ください。

◇牧会訪問、自宅や病床での陪餐、ご家族・少人数での礼拝や記念式への参加を希望される方は教会までご連絡ください。

◇教会への月約献金・感謝献金は郵便振替をご利用ください。

ゆうちょ銀行 00160-1-91168

日本聖公会 聖アンデレ教会

◇主日礼拝・平日の公祷をライブ配信しています。
教会HPからご覧になれます。

「今、福音に聴く」

マタイによる福音書の通読とメッセージ」

2021年6月にスタートした「今、福音に聴く」は福音書を通して読み進めながら、各箇所のメッセージを分かち合っていただき、「今」を生きる私たちの信仰の養い、道しるべとなればという思いで始まった企画です。

聖書朗読を聞き、あるいは読みながら、福音書が投げかけるメッセージを黙想し、日々の祈りのきっかけにしていいただければ幸いです。

